

ストロー、レジ袋、マスク——。使い捨てない時代へ。



世界的な海洋汚染の原因として
使い捨てプラスチックが問題視されたことから、
スターバックスが、プラスチック製ストローの提供をやめる、
と発表したのが、2018年夏。

この頃から、世界中で
"脱プラスチック"の動きが広まってきました。

環境への配慮を心がけている人は、ストローだけでなく、
コーヒーのテイクアウトの際に
マイボトルに注いでくれるカフェを利用するといったことも
積極的に行っているようです。

また日本では、今年7月からレジ袋が有料化されることが決まり、
昨年あたりからエコバッグを買い揃える人が急増中。
スーパーや雑貨ショップには専用コーナーが設けられ、
さまざまなエコバッグが機能やデザインを競っています。

そして、いま。
新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、マスク不足が深刻化。
医療機関や介護施設などでさえ入手困難となっていて、
政府はマスク転売禁止を決めました。

そもそもこの問題は、いつの頃からか

「マスクは使い捨てるもの」という習慣が根付いてしまったことが大きな原因ではないでしょうか。

かつてマスクはガーゼなどの布製が一般的で、洗って繰り返し使うのが当たり前でした。

今回、「使い捨てマスク」が入手できない状態が長く続いたことから、必要に迫られ、ガーゼや布でマスクを手作りする人が増えています。つまり、マスク本来の在り方に立ち戻り、「使い捨てないマスク」の価値が改めて見直されているのです。

ストロー、レジ袋、マスク……。

「使い捨て」が文化として根付き、その便利さを謳歌した時代はもはや過去のものになりつつあるようです。

普段の買い物が持続可能な社会の実現につながる、エシカル消費やSDGsへの関心の高まりもその流れを後押ししているのかもしれませんが。

使い捨て文化から、使い捨てない時代へ。

キュアテックスも、「洗って繰り返し使えるマスク」の取り組みを始めました。使い捨てない時代の世の中に微力ながら貢献できたら、と願っています。